株式会社エム・システム技研

絶縁2出力超小形信号変換器 *ピコマル* シリーズ

取扱説明書	数字設定、2点警報 アラームセッタ	形 式 M8SED1

ご使用いただく前に

このたびは、エム・システム技研の製品をお買い上げいただき誠にありがとうございます。本器をご使用いただく前に、下記事項をご確認下さい。

■梱包内容を確認して下さい

・変換器..1台

■形式を確認して下さい

お手元の製品がご注文された形式かどうか、スペック表示で形式と仕様を確認して下さい。

■取扱説明書の記載内容について

本取扱説明書は本器の取扱い方法、外部結線および簡単な保守方法について記載したものです。

ご注意事項

● EC指令適合品としてご使用の場合

・本器の入力ー出力間の絶縁能力は機能絶縁です。

・本器は盤内蔵形として定義されるため、必ず制御盤内に設置して下さい。

・遠方より引込む配線には、各種避雷器を設置して下さい。

・お客様の装置に実際に組込んだ際に、規格を満足させるために必要な対策は、ご使用になる制御盤の構成、接続される他の機器との関係、配線等により変化することがあります。従って、お客様にて装置全体でCEマーキングへの適合を確認していただく必要があります。

●供給電源

・許容電圧範囲、消費電流

スペック表示で定格電圧をご確認下さい。

定格電圧　24 VDCの場合　DC 24 V ± 10 %、約60 mA

●設置について

・塵埃、金属粉などの多いところでは、防塵設計のきょう体に収納し、放熱対策を施して下さい。

・振動、衝撃は故障の原因となることがあるため極力避けて下さい。

・周囲温度が0～55℃を超えるような場所、周囲湿度が30～95 % RHを超えるような場所や結露するような場所でのご使用は、寿命・動作に影響しますので避けて下さい。

・配線などで本体の通風口を塞がぬようご注意下さい。

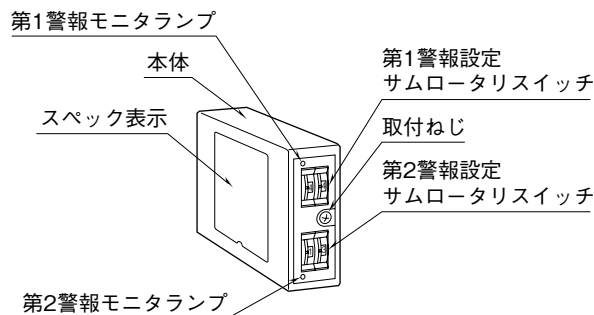
●配線について

・配線(入力信号線、出力信号線)は、ノイズ発生源(リレー駆動線、高周波ラインなど)の近くに設置しないで下さい。

・ノイズが重畳している配線と共に結束したり、同一ダクト内に収納することは避けて下さい。

●その他

・本器は電源投入と同時に動作しますが、すべての性能を満足するには10分の通電が必要です。

各部の名称

取付方法

多連取付用ベース（形式：M8BS□）をお使い下さい。

接　続

各端子の接続は下図を参考にして行って下さい。

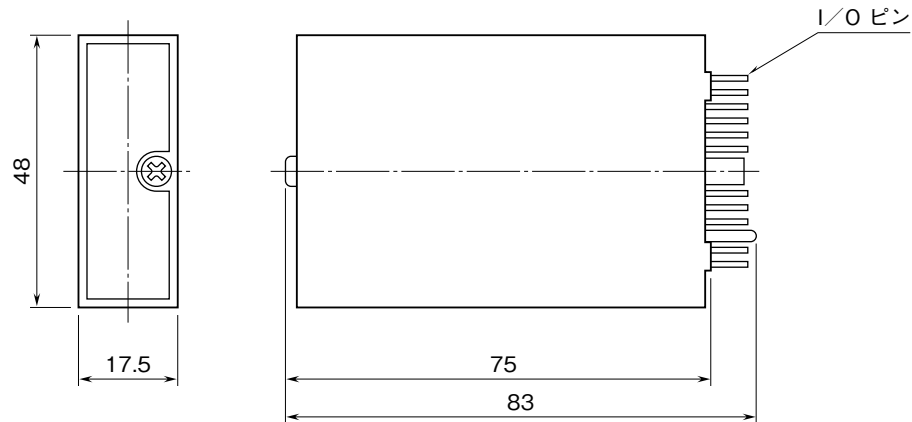
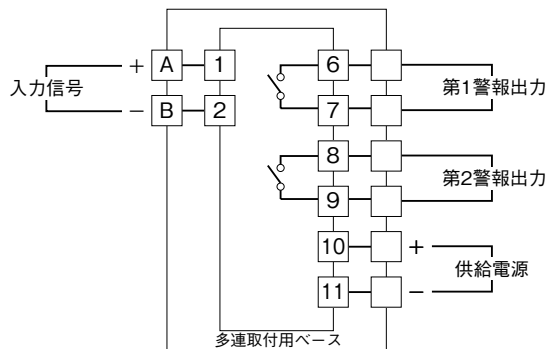
外形寸法図（単位：mm）

端子接続図

点　検

①端子接続図に従って結線がされていますか。
②供給電源の電圧は正常ですか。
③入力信号は正常ですか。
　入力値が 0 〜 100 % の範囲内であれば正常です。
④出力信号は正常ですか。
　AC 125 V 25 VA、DC 60 V 15 W 以下であれば正常です。負荷が誘導性負荷のときは、接点保護のため火花消去処理を施して下さい。
　多連ベース（M8BS − 16 等）を使用する場合の許容値は次のようになります。
　端子出力　　　AC 100 V　0.25 A、DC 30 V　0.25 A
　コネクタ出力　AC　24 V　50 mA、DC 24 V　50 mA

警報動作

	警報	形式コード	通電時 入力値＜設定値	通電時 入力値＞設定値	停電時
第 1	上限	1	OFF	ON	OFF
警報	上限	2	ON	OFF	ON
第 2	下限	1	ON	OFF	OFF
警報	下限	2	OFF	ON	ON

設　定

■設定方法

ユニット前面のサムロータリスイッチを指で回して、表示された数値が動作点〔%〕を表します。
第 1 警報は上限警報、第 2 警報は下限警報です。
モニタランプはリレーコイル励磁時に点灯し、第 1 警報は（入力信号）＞（設定値）、第 2 警報は（入力信号）＜（設定値）のとき励磁します。
出力接点は、コード“1”のとき励磁時 ON となり、コード“2”のとき非励磁時 ON となります。

保　守

定期校正時は下記の要領で行って下さい。

■校　正

10 分以上通電した後、下記の要領で警報動作をご確認下さい。

上限設定値の確認
　入力信号を 0 % 側から徐々に上げていき、規定の設定精度定格範囲内で警報動作を行うことを確認して下さい。
下限設定値の確認
　入力信号を 100 % 側から徐々に下げていき、規定の設定精度定格範囲内で警報動作を行うことを確認して下さい。

警報動作が設定精度から外れている場合は、最寄りの代理店またはエム・システム技研まで、ご相談下さい。

保　証

本器は、厳密な社内検査を経て出荷されておりますが、万一製造上の不備による故障、または輸送中の事故、出荷後 3 年以内正常な使用状態における故障の際は、ご返送いただければ交換品を発送します。